

## 第2章 立地適正化計画の基本的な方針

### 1. まちづくりの方針の検討

本市の立地適正化計画は、本市が抱える公共施設等の老朽化に伴う施設の見直しや維持管理コストの適正化、あるいは公共交通ネットワークの見直し等の課題を踏まえ、まちづくりの方針を設定し、共有する必要があります。

本市においては、人口の減少が続いている現状を踏まえると、将来においてもある程度の減少は進むと考えられます。自然減については全国的な現象であり、市独自の対策によって大きく転換することは難しいですが、社会減については様々な対策によって改善できる可能性があります。

近年、移住の促進などによって改善の傾向はみられており、全体人口については社会減から社会増に転じることが当面の目標になると考えられます。

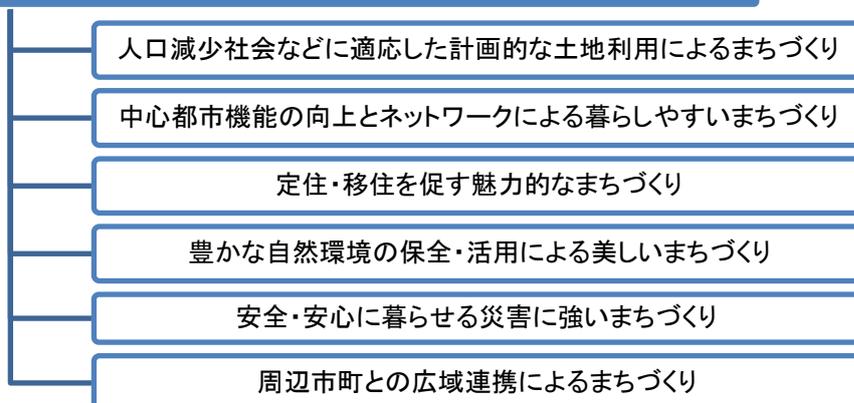
また、人口の分布については中心市街地の人口減少と郊外への人口移動が進み、低密度化してきたことに歯止めをかけ、鉄道駅周辺や中心市街地への人口の集約を目指すコンパクトなまちづくりを進める必要があります。

このようなまちづくりの方針を決める際には、本市の最上位計画である「第4次魚津市総合計画」における目標都市像に即し、「魚津市都市マスタープラン」で都市づくりの基本的方針を定めていることから、これを基に定めます。また、都市基盤分野における関連計画が一体となり、目指すべき基本的方針とするために、これらの関連計画の方針を踏まえ、「立地適正化計画の基本的な方針」を定めます。

#### (1) まちづくりの目標将来像と基本方針（魚津市都市マスタープランより）

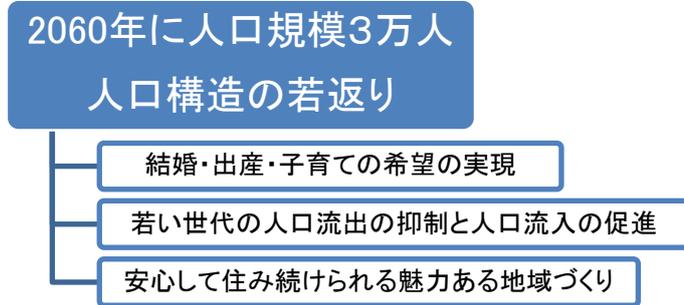
魚津市都市マスタープランでは、以下のとおり、将来像と基本方針が定められています。

#### 人が輝き、笑顔の絆がつなぐ躍動都市”魚津”



(2) 目指すべき人口の将来展望（魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより）

魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンでは、以下のとおり、将来人口規模や基本的視点を定めています。



(3) まちづくりの方針

これらを踏まえ、人口構造が若返り、本市が躍動するために、「未来を担う若者たちに繋げるまちづくり」を方針とし、日常生活において「生活・交通の利便性が高いと感じることができるまちづくり」を目指します。

中心市街地を活性化し、生活・交通の利便性を高く確保し、  
未来を担う若者たちにつなげる魅力的なまちづくり

方針1 (人口動向)	魚津駅・新魚津駅周辺及び電鉄魚津駅周辺を中心とする市街地において、日常生活に必要な生活サービス機能を持続的に確保できるように、中心市街地での人口密度の維持を目指します。
方針2 (土地利用)	災害や歩行者等に対する安全性を考慮した住環境の形成を図るとともに、子育て世代の移住・定住や市民が安心して暮らせる生活利便性の高い住環境の維持・向上を目指します。
方針3 (地域経済)	魚津駅・新魚津駅周辺及び電鉄魚津駅周辺は、本市の経済の中心であり、賑わいの再生を図り、魅力を高めることで、より利便性の高い日常生活を維持し、安定した財政収入を目指します。
方針4 (交通利便性)	少子高齢化の中、公共交通が持続し、市民の自由な移動が確保できるよう、持続可能性を高める公共交通ネットワークを目指します。

## 2. 目指すべき都市の骨格構造

本市においては、まちづくりの方針を見据えながら、市内の5つの鉄道駅を中心としたまちづくりを進めます。とりわけ、あいの風とやま鉄道魚津駅、富山地方鉄道新魚津駅を中心とするエリアと、富山地方鉄道電鉄魚津駅を中心とするエリアを都市づくりの核（中心拠点）とすることによって、コンパクトな都市構造とし、中心拠点を中心に基幹的な公共交通軸を形成し、市内各地区を鉄道とバスでつなぐネットワークを構築・維持することによって、持続可能で活力のある都市を目指します。

### (1) 中心拠点

- ・魚津駅、新魚津駅周辺（あいの風とやま鉄道魚津駅、富山地方鉄道新魚津駅周辺）
- ・電鉄魚津駅周辺（大町・村木地区、富山地方鉄道電鉄魚津駅周辺）

※「中心拠点」とは、市域各所からの公共交通アクセス性に優れ、市民に行政中枢機能、総合病院、相当程度の商業集積などの高次の都市機能を提供する拠点。

### (2) 地域拠点

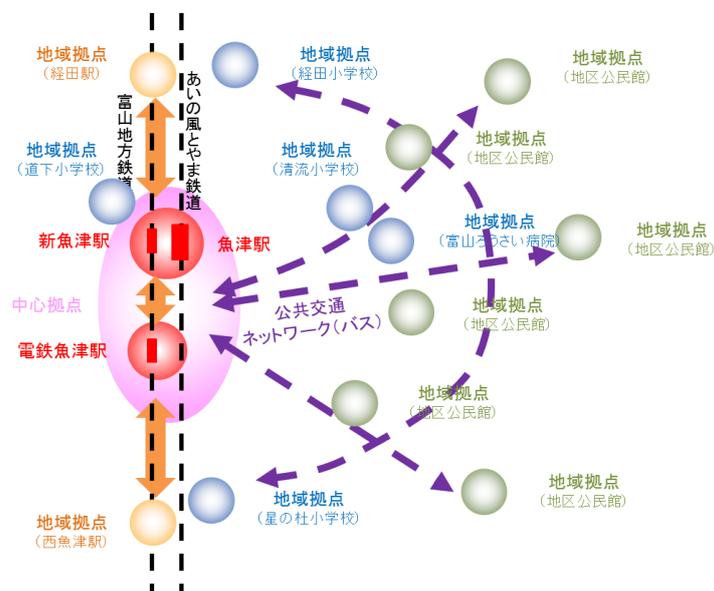
- ・西魚津駅周辺（富山地方鉄道西魚津駅周辺）
- ・経田駅周辺（富山地方鉄道経田駅周辺）
- ・小学校
- ・地区公民館

※「地域拠点」とは、地域の中心としてすでに地域活動が確立している基礎集落、地域住民に行政支所機能など、主として日常生活サービス機能を提供する拠点。

### (3) 交通体系及び基幹的な公共交通軸

- ・鉄道を軸としてバスで各地域を結ぶネットワークの構築
- ・住宅地区と医療施設・商業施設・官公庁施設等を結ぶバスネットワークの構築
- ・中心拠点の移動に資する公共交通手段の確保
- ・歩行者及び自転車の通行空間の整備

※「基幹的な公共交通軸」とは、中心拠点を中心に地域拠点、居住を誘導すべき地域を結ぶ都市軸で、将来にわたり一定以上のサービス水準を確保する公共交通が運行する軸。



【目指すべき都市の骨格構造の概念図】